

Enhancing the Function of Public Open Space during Festivals

アンヂニ, ラヂシャ プラチイウイ

<https://doi.org/10.15017/1654626>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（人間環境学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏 名 : Andini Radisya Pratiwi
(アンヂニ ラヂシャ プラチイウイ)

論 文 名 : Enhancing the Function of Public Open Space during Festivals
(祭り開催時における公共空間の機能強化に関する研究)

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

伝統的な祭りは、都市活動の一環として公共空間の賑わいや都市観光の集客に貢献している。近年、産業観光・地域資源としての伝統的祭りを活かしたまちづくりの活動が盛んに行われている。その要因の一つとして、祭りには地域のつながりをつくる効果があり、都市の魅力を生み出す要素であると認識されるようになったと指摘されている。また、祭りには、伝統的なものもあれば新しいものもあるが、祭り開催時、基本的には道路空間を利用するケースが多く、その際、公共空間は日常と対照的に祭りの場へと変化する。つまり、祭り開催時における公共空間の機能をどのように果たすべきかが極めて重要であると考えられる。一方、これまで都市計画分野においては、「まちづくりにおける祭りの意義」や「祭りとコミュニティの継承」などに関する研究が多く発表されているが、いずれもまちづくりの方法論やコミュニティの再生に関するものである。

そこで、本研究は以上の背景を踏まえながら、祭り開催期間中における公共空間のアクセシビリティ、来街者の回遊行動、満足度及び祭りに対する来街者の意識に着目し、福岡の三大祭りと呼ばれる「博多どんたく」、「放生会」、「祇園山笠」を対象に実地調査及び来街者アンケート調査を実施し、来街者の回遊行動を分析することによって、祭り開催時における公共空間の機能強化に繋がる要因を明らかにし、さらにケーススタディとしてインドネシア・マカッサルで行われている代表的な祭りを取り上げて、祭りの歴史的背景、現状及び問題点を把握した上で、福岡の調査分析結果と比較しながら、マカッサルの実情に対応できる解決策を提示することを目的としている。

本論文は、6章で構成されている。

第1章では、研究の背景について述べ、既往の研究を整理した上で本研究の目的及び論文の構成を示した。

第2章では、祭りの開催期間中における歩行空間のアクセシビリティに着目し、「博多どんたく」を対象に来街者の行動調査及びアンケート調査を実施し、来街者の満足度及び歩行空間のアクセシビリティに対する影響要因を分析することによって、公共空間の機能を強化するための知見を提示することを目的としている。具体的には、アクセシビリティに対する影響要因は歩行空間の安全性、移動性、アメニティであることを明らかにし、その中で特にベンチ、休憩スペースなどのアメニティに関わる要素の影響が最も大きいと指摘した。また、交通拠点から目的地までの移動距離は、日常的な歩行行動に影響するが、祭り期間中はその影響が極めて小さいことを明らかにした。

第3章では、祭りの開催期間中における来街者の行動に着目し、「放生会」を対象に来街者の回遊行動を調査分析し、移動距離、滞在時間、滞在行動に影響を与える要因を明らかにすることを目的

としている。まず平均移動距離は約 800m で、平均滞在時間は約 45 分であり、いずれも通常時に比べて長く、また店舗の立地場所や休憩スペースの設置は移動距離、滞在時間のみならず、滞在行动に大きな影響を与えていることを明らかにした。さらに来街の動機や目的に関わらず、来街者の回遊ルート及び回遊の起終点は、仮設店舗の密度、特徴的なサインによって変化すると指摘した。

第 4 章では、祭りを社会的資源としてとらえ、「祇園山笠」を対象に文献調査及び来街者のヒアリング調査を実施し、祭りに対する来街者の意識、満足度の影響要因を明らかにすることを目的としている。来街者の意識調査では、「祇園山笠」が伝統的文化を学ぶための機会としてとらえられており、場の帰属意識を高め、社会的な集約力と生活の質の向上に繋がっていると評価されていることを明らかにした。また、地元コミュニティによる周到な準備、プログラムの編成及び祭り期間中における安全性と快適性を考慮した仮設設備の設置は来街者の満足度の向上に繋がる効果があると指摘した。

第 5 章では、ケーススタディとして、インドネシア・マカッサルで開催されている代表的な祭り (Gebyar Pantai Losari Festival) を対象に現地調査を実施し、福岡三大祭りの諸要素と比較しながら、マカッサルの問題点を指摘し、来街者の満足度の向上及びその問題点の解決に必要な対策を提示することを目的としている。具体的には、来街者は祭りの活動自体に対して評価しているにも関わらず、公共空間に設置されている仮設設備の充実度及び周辺環境への配慮に対して強い不満を持っていることを明らかにした。また、祭りは都市活動の一つとして、行政のみならず、地元コミュニティによる企画・参加、そして伝統的な祭りを持続させるために、両者の協働による公共空間の機能強化は必要であると指摘した。

第 6 章では、本研究で得られた結果を総括し、まとめとしている。